

茂吉は、蔵王山麓の金瓶村の農家、守谷家の三男として生まれました。

満十四歳で上京するまでの間、自然に親しみながら、宗教や書道、絵画などへの関心について、となりの宝泉寺住職をはじめ周囲の人びとから多くの影響を受け、それらは、方言とともに一生忘れることはありませんでした。

少年の頃の茂吉は、体つきが細く、寝小便もなかなか直らず、一見ひ弱でしたが、半郷の小学校までの二キロメートル、上山の小学校までの四キロメートルの道を毎日通う頃には、ねばり強く、がまん強い、たくましい子どもに成長しました。

茂吉の系譜(守谷家・金沢家・斎藤家)

茂吉が生まれた頃の守谷家は、多くの農地を所有し、また養蚕も盛んで、家族は両親、兄二人、祖父(母の兄、伝吉)祖母(父の姉)、曾祖母(母の母)の八人家族でした。当主は祖父の伝右衛門(伝吉)でしたが伝右衛門夫婦に子どもがなかったため、その妻ひでの弟、父熊次郎を実家の金沢家から養子に迎え、伝吉の妹いくと結婚させました。祖父が亡くなった後、父熊次郎は伝右衛門を襲名しゅうめいします。

